

安曇野白鳥物語

北帰行できなかつた白鳥「あづみ」

会田 仁

〒 399-8301 長野県安曇野市穂高有明 1747-2

昨シーズン、右の翼そして左の足を怪我をして北帰行できなかつたコハクチョウ（あづみ）は、23年6月3日、もう1羽のコハクチョウ（ゆうき）と最後の別れとなった。1羽になったあづみは、安曇野の犀川白鳥湖で来シーズン仲間たちの飛来を待つ事になった。

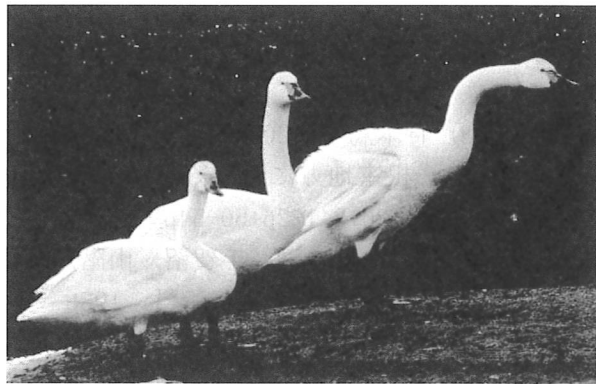
ダム下流に流されていたあづみは6月11日、ダム上流へ戻った。右の翼、左の足もだいぶ回復しているように見えた。

6月17日、川岸にまいたエサを食べるようになった。そして厳しい暑い夏が来た。白鳥湖の夏は炎天下で40℃をこす日が続いた。ダム湖周辺でのつりやカヌー、花火遊びの恐怖にも耐え、夏が過ぎ、9月も残暑が続き、そして10月1日、北海道より白鳥渡来の連絡があり、安曇野犀川白鳥湖にも、10月10日11時30分、1羽の飛来を確認。昨年より8日早い飛来でした。飛ぶ姿を見ていないあづみが、飛来した白鳥につられ、百メートルくらい飛んだ。

10月14日、飛来した白鳥の中に、昨シーズン6月に別れた「ゆうき」によく似たビルパターン（嘴のまよう）のコハクチョウがいた。カメラマン数人で白鳥の顔を写真に撮り見くらべたが、びみょうにパターンが違った。ゆうきではなかつた。ざんねん。

その後、あづみは仲間と白鳥湖周辺を飛び、エサ場にも飛んで来るようになった。10月28日、あづみは仲間と5キロメートル下流の御宝田池に飛来（16時50分）。夕方あづみは白鳥湖へ帰った。後に、あづみは仲間と6キロメートルくらい上流の高家（たきべ）の水田まで飛び、田んぼでエサを食べることが出来るまでに回復してきた。

12月31日、仲間の白鳥たちも日に日に数も増え、480羽となった。年が明け、あづ



左・あづみ 中・とみちや 右・はるな

みが飛ぶ姿を見ていない毎日。白鳥湖にいる様子がおかしい。また、飛ぶことができなくなっている！数人のカメラマンに聞くが、最近あづみの飛ぶ姿を見ていない。又、羽がおかしい。頭部左に腫瘍が有る？ 元気は良く、エサもよく食べている。

2月22日、仲間たちは北帰行が始まった。3月下旬、多くの仲間たちは北帰行のピークを迎えている中、今シーズンは1,338羽をカウントした（2月上旬）シーズン中も電線に衝突し、翼に怪我をする事故が6件確認している。5月1日、成鳥4羽、幼鳥4羽となり、合計8羽となった。あづみも残留組だ。内、幼鳥1羽がカビ性肺炎で死亡（5月20日）した。5月21日幼鳥3羽で北帰。成鳥だけが5羽残った。



左・のんちゃん 右・ゆきちゃん

白鳥湖に、あづみを含む3羽、右翼に怪我をした白鳥（はるな）に、左翼に怪我の白鳥（とみちゃ）に、御宝田池の2羽も名前を付けた。（のんちゃ）（ゆきちゃ）。2羽は保護する予定。

あづみは2度目の夏を迎える。怪我で故郷に帰る事のできない白鳥の保護活動が始まって28年。5羽の白鳥が残ったのは初めて。ど

う対処して良いのか、今後の大きな課題となってしまった。